

注意点1



理論

主旋律と3度上のハモリのポジションを理解せよ

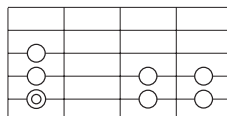
このエクササイズでは、メイン・フレーズが主旋律、松フレーズが3度上のハモリになる。このような単音フレーズでハモリを作る時には、3度上の音を使用することが多いので覚えておこう。ただし、ハモリは主旋律のポジションを単純に数フレット分ズラして弾けばOKというわけではないので注意すること。ちなみに、このメイン・フレーズはAナチュラル・マイナーを土台に構築していて、12フレットを中心にしたポジションになっている。そして、ハモリ・パートである松フレーズは、それよりも3フレット分上の15フレットを中心にしたポジション（Cメジャー・スケールとも解釈できる【註】）になっているのだ。この2つのポジションの違いを確認しておくとうまいだろう（図1）。

図1 主旋律とハモリのポジション

・メイン・フレーズ1小節目
（主旋律：Aナチュラル・マイナー）

・松フレーズ1小節目
（ハモリ：Cメジャー）

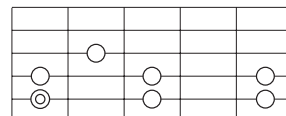
◎トニック=A音



12

15

◎トニック=C音



15

17

19

ハモリは主旋律のポジションを単純に3フレット分上げただけではいけないので、フィンガリング・ポジションの違いを理解しておこう！

注意点2



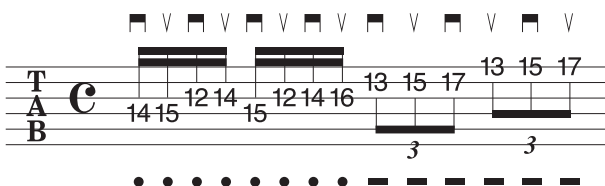
理論

音符の長さの違いを想像してタメのある演奏を行なうべし

メイン・フレーズ2&3小節目2〜3拍目の16分音符から3連符または8分音符への切り替えには注意が必要だ。ここではリズムをタメて緩急を付けるのだが、スピード変化を意識するあまり、演奏がモタらないようにしよう。基本的には腕の力を抜く感じで、サラッと弾くとリズムにウマく乗れるはずだ。また、16分音符を“点”、3連符や8分音符を“線”という風に音符の長さの違いを頭の中でイメージしておくとうまいだろう（図2）。このような緩急付けは“泣きのギター”の常套句の1つで、リズムをタメることによって“この次にどんなフレーズが来るのだろうか？”というような先の展開に対する期待感を高める効果があるのだ。ソロの表現力を上げるために必ず覚えよう！

図2 音符のイメージ

・メイン・フレーズ2小節目



16分音符は“点”、3連符は“線”というような形で、音符の長さの違いを具体的にイメージしておこう。

～コラム14～

教官の戯れ言

実は著者が初めて聴いたデス・メタルのアルバムは、マイケル・アモットが参加したカーカスの『ハートワーク』だった。激しく疾走感のあるサウンドに泣きのギターを融合させた彼らのスタイルに大きな衝撃を受けたことをよく覚えている。現在ではメタル界の主流となったメロデスの礎を作ったのは彼に間違いないだろう。カーカス脱退後に結成したアーキ・エネミーでは、モダン・ヘヴィ系の要素も取り入れ、進化したメロデス・サウンドを聴かせている。ただ、彼のギター・プレイの根本にある“泣き”は健在で、激烈サウンドと美旋律のコントラストにいつもグッと来てしまうね。

著者・小林信一、かく語りき
マイケル・アモット編カーカス
『ハートワーク』

マイケル・アモットの加入後に発表された4枚目。ブルー・タルなヘヴィ・サウンドに叙情的なメロディが見事に融合したメタルの名盤だ。

アーキ・エネミー
『ウェイズ・オブ・シン』

より多彩かつドラマティックな楽曲を聴かせる4thアルバム。アモット兄弟による鉄壁のツイン・ギターも鋭さを増している。

【Cメジャー・スケールとも解釈できる】Aナチュラル・マイナーを3rd音であるC音から並べ替えるとCメジャーになる。松フレーズは、メイン・フレーズとのポジションの違いを明確にするため、Cメジャーと捉えても良い。